

地盤調査規格・基準委員会

平成22年度第1回 議事録

日 時	平成22年 5月11日 (火) 14:00~17:00			場 所	地盤工学会 会議室			
委員長	谷 和夫		幹事(岩)	長田 昌彦		幹事(土)	利藤 房男	
委員	-	-	WG1委員	松島 潤	×	WG1委員	林 宏一	
WG2委員	木村 英雄		WG2委員	水谷 崇亮		WG3委員	井尻 裕二	×
WG3委員	小松 満		WG4委員	平林 弘		WG5委員	小早川 博亮	
WG5委員	山本 裕司		WG6委員	中村 洋丈		WG7委員	浅井 健一	
WG7委員	藤崎 勝利		WG8委員	日比 義彦		WG8委員	藤根 拓	
WG10リーダー	稲垣 秀輝							

: 出席 : 代理出席 × : 欠席 : 未定

配布資料

委員会名	資料	資料の有無・番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録 (H21-1-29)	・ 資料22-1-1
ワーキング1~12	ワーキング基本方針	・ 資料22-1-2
ワーキング1~12	ワーキングメンバー表	・ 資料22-1-3
基準部会	平成22年度第1回基準部会報告	・ 資料22-1-4
JIS規格	JIS 規格票の様式及び作成方法 (JISZ8301:2008)	・ 資料22-1-5
地盤調査規格・基準委員会	地盤調査方法と解説 改定計画書	・ 資料22-1-6 (参考資料)

審議事項

(1) 前回議事録確認 (資料22-1-1)

特に意見なし

(2) ワーキング1~12基本方針 (資料22-1-2、22-1-3)

各ワーキングから、基準の作成方針、メンバー等について報告を受け、内容を審議した。出された意見は以下のとおり。

WG1

- ・ 物理探査学会マニュアルとの整合を取るとのことだが、著作権は大丈夫か。
マニュアルの内容を横目で見ながら進めるということで、著作権に触れるようなやり方ではない。
- ・ 成果品に関する基準とは。
探査結果のことで、「結果の整理と解析」のところに記載する。
- ・ 基準が古くなっていないか確認すること。

WG2

- ・ 「サンプラー」と「サンプリング」の用語が混在しているので、整理して欲しい。
- ・ 土のロータリー式サンプラー3種、岩の1種が一つの基準にならないか検討して欲しい。
- ・ 土のロータリーサンプラーの基準が古いようなので見直して欲しい。
- ・ ポーリング孔の復旧が悪く汚染が広がることがあるので、現在の記載よりもはっきり記載して欲しい。

WG3

- ・ これまでは1基準、1章が原則だが、関連する基準はまとめて1章とする。

- ・ボーリング孔、観測井とあるが、一つに統一できないか。タイトルを変えることは検討できないか。

WG4

- ・英文は必要か。 JGS基準は、基本的に英文は必要。

WG5

- ・地盤と道路の平板載荷試験の基準を一つに出来ないか 今回は困難。解説を一つにすることを検討する。
- ・第2章のタイトルは、プレッシャメータ試験に変更して欲しい。
- ・第8章 岩盤の点載荷試験 岩石の点載荷試験に変更。

WG6

- ・砂置換法の最小体積を変更したい。 変更することは可能。
- ・砂置換法、深さに対する記述を入れたい。 ジャーの体積を越えることは良くない。掘った深さを記載させる対応もあるのでは。

WG7

- ・ページがかなり増える。指摘事項は特になし。

WG8

- ・12編第4章の地盤汚染は、11編に移動する。
- ・11編のタイトルを、「地盤汚染調査」としたい。12編のタイトルを混乱を避けるために変更できないか調整が必要。
- ・ISO（サンプリング）に対する話題を、解説に入れたいと考えている。
- ・土壌汚染対策法、自然由来重金属の扱いを検討する。

WG9

- ・JR総研から委員を追加したい(川越氏) 要審議
- ・指摘事項は特になし。

WG10

- ・委員を変更の予定(岩崎氏) 要審議
- ・指摘事項は特になし。

(3) その他

次回は、9 / 28 (火) 14時～17時。

審議事項は、「目次、ページ数の調整」、「あがって来た基準を逐次審議」。基準は、新旧対比表を基に実施する。

報告事項

(1) 基準部会報告(資料22-1-4)

標準貫入試験の用語「設計N値」に関して、基準部会の意見を踏まえ説明をし、委員から以下の意見をいただいた。これらの意見を考慮して、ワーキング4で最終規格に仕上げる。

- ・設計N値とすると、設計コードの設計N値と混乱が生じる可能性があるので、別の表現を考えて欲しい。
- ・代わる用語として、「旧JIS N値」、「付属書N値」、「付属書AのN値」の意見が出た。

(2) JIS規格票の様式及び作成方法(JISZ8301:2008)に関して(資料22-1-5)

ワーキング4の平林委員から、規格票に関する説明を行い、内容を確認した。幹事より、各委員にJIS規格票の様式及び作成方法のpdfファイルと、テンプレートをメールにて送付する。

- ・引用規格にJGSを用いてもよい。
- ・注記は基準としての強制力がないので、基準としたい文章は本文に記載すること。
- ・体裁は一段書きで、二段書きにする必要は無い。二段書きは、製本業者の方で対応する。
- ・解説に早速取り掛かるワーキングがあるので、赤本のフォーマットを幹事の方で入手し、各委員にメールにて送付する。
- ・解説での文字等の標記方法は、JIS規格票の作成方法に準じる。
- ・前回青本で使用した図、表を、今回の青本で同様を使用するときは、筆者の許可を取る必要がある。